

MAMIYA CAMERA-PHOTO LIFE SUPPORT



マミヤカメラクラブ

マミヤカメラクラブはマミヤカメラをご愛用の方ならどなたでもご入会いただける写真クラブです。
マミヤカメラクラブ会報誌 (Mamiya Gallery) の発行 (原則年2回)。プロ写真家による撮影会・勉強会・セミナーの開催。web ギャラリーで会員の作品展示。マミヤ製品修理・点検料金の割引等と会員特典もたくさんあります。マミヤカメラに関する情報、会員相互の親睦と写真技術向上をめざし、素晴らしい写真の世界をご堪能ください。



入会費用

入会金 1000円 (税込)
年会費 3000円 (税込) ご入会日より1年間。
※但し2年分の年会費をご入会時にお納めください。

特典

- マミヤカメラクラブ会報 (Mamiya Gallery) の発行。
- クラブ撮影会の開催。
- 勉強会・セミナーの開催。
- ホームページ上に会員作品ギャラリーの開設。
- マミヤ製品修理・点検料金の割引。
- 会員証、オリジナル会員バッジ提供。
- オリジナル会員名刺制作 (有料)。

マミヤ・デジタル・イメージング株式会社

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-2-2 ココタイラビル 1F
TEL.03-6748-1983 FAX.03-6748-1991

●製品・修理に関するお問い合わせは、東京サービスセンターへご相談ください。

- 修理をはじめオーバーホール、清掃等を承ります。
- 東京サービスセンターショールームにはマミヤ全機種を展示しています。
- 実際に製品を手にとって操作感や質感を確かめられます。また、選定のアドバイス、操作上の疑問にもお答えしています。

東京サービスセンター

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-2-2 ココタイラビル 1F
TEL.03-6748-1983 FAX.03-6748-1991
営業時間 9:00~17:50 土、日、祝日は休業



●修理に関するお問い合わせは、マミヤカメラ認定修理センターへお問い合わせください。※マミヤカメラ認定修理センターでは、製品の説明に関する業務はいたしておりません。

マミヤカメラ認定修理センター

●北海道地区 株式会社タック・カメラサービスセンター 〒060-0053 札幌市中央区南3条東4丁目 TEL.011-221-8507 FAX.011-232-3344	●東北地区 MC プロテック 〒983-0841 宮城県仙台市宮城野区原町5-3-44 森ビル202 TEL.022-297-3846 FAX.022-256-1808	●東海地区 山田テクニカルサービス 〒496-0026 愛知県津島市唐臼町大門99 TEL.0567-32-2708 FAX.0567-32-3454
--	--	---

マミヤカメラクラブ事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-39-14 ワイズビル 株式会社ワイズクリエイイト内
TEL.03-5689-2776 FAX.03-5689-2786
E-mail :info@mamiya-club.com

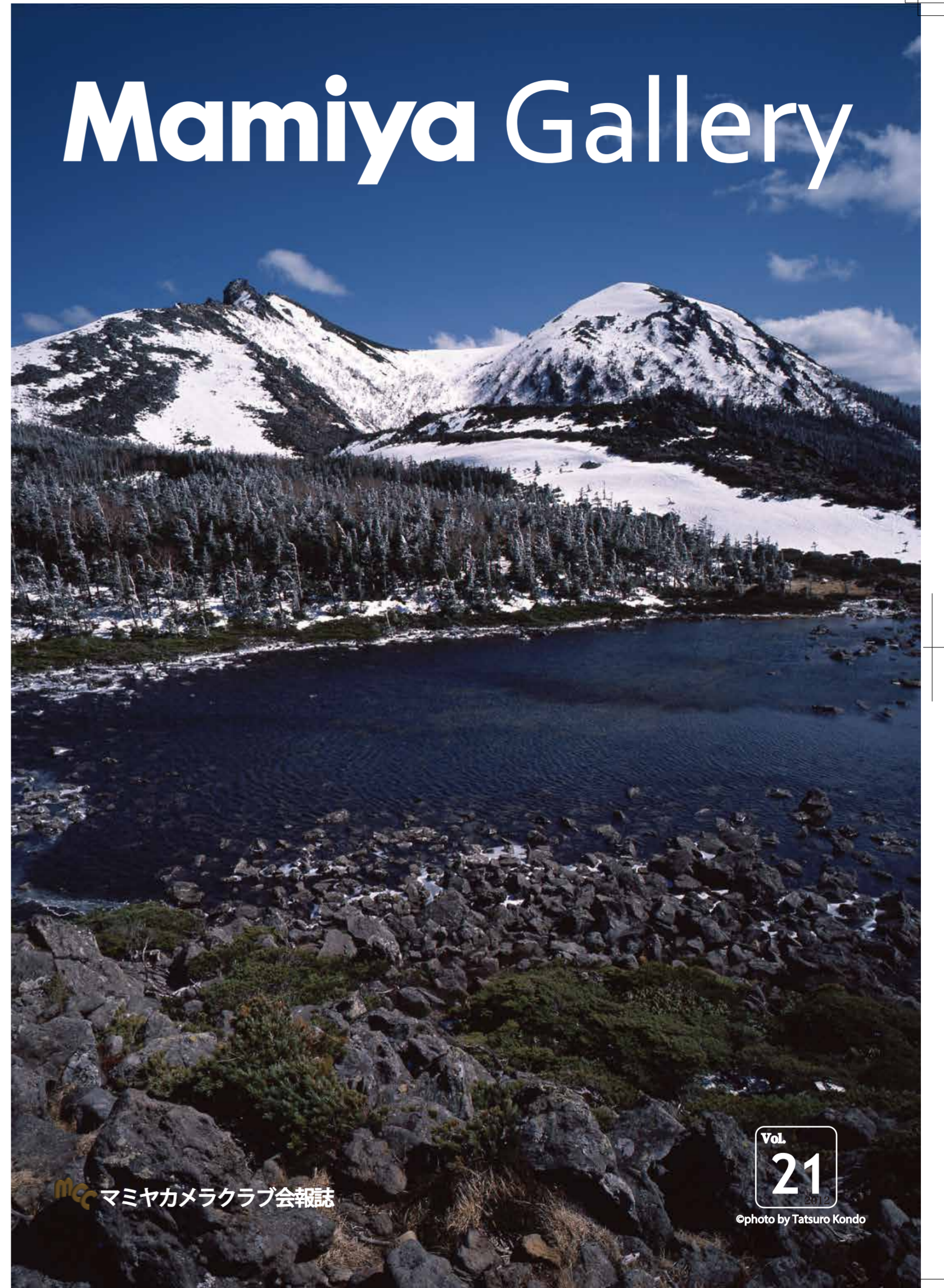
- マミヤカメラクラブの入会お申込み等お気軽にお問い合わせください。
- 撮影会・イベントのお申込み・お問い合わせを承ります。
- 下記、ホームページでも詳しくお知らせしております。是非ご覧ください。

マミヤカメラクラブホームページ <http://www.mamiya-club.com/>

ワイズクリエイイトは写真を通じて人と人、人と自然とのコミュニケーションを確立する事を目的とするフォトオフィスです。
大中判カメラ専門ショップを展開、自然写真家、山岳写真家による写真セミナー、撮影会の開催、写真集の出版、写真レンタル、各種制作業務等、写真に関するソフトとハードあらゆる業務を行います。
www.yscreate.co.jp



Mamiya Gallery



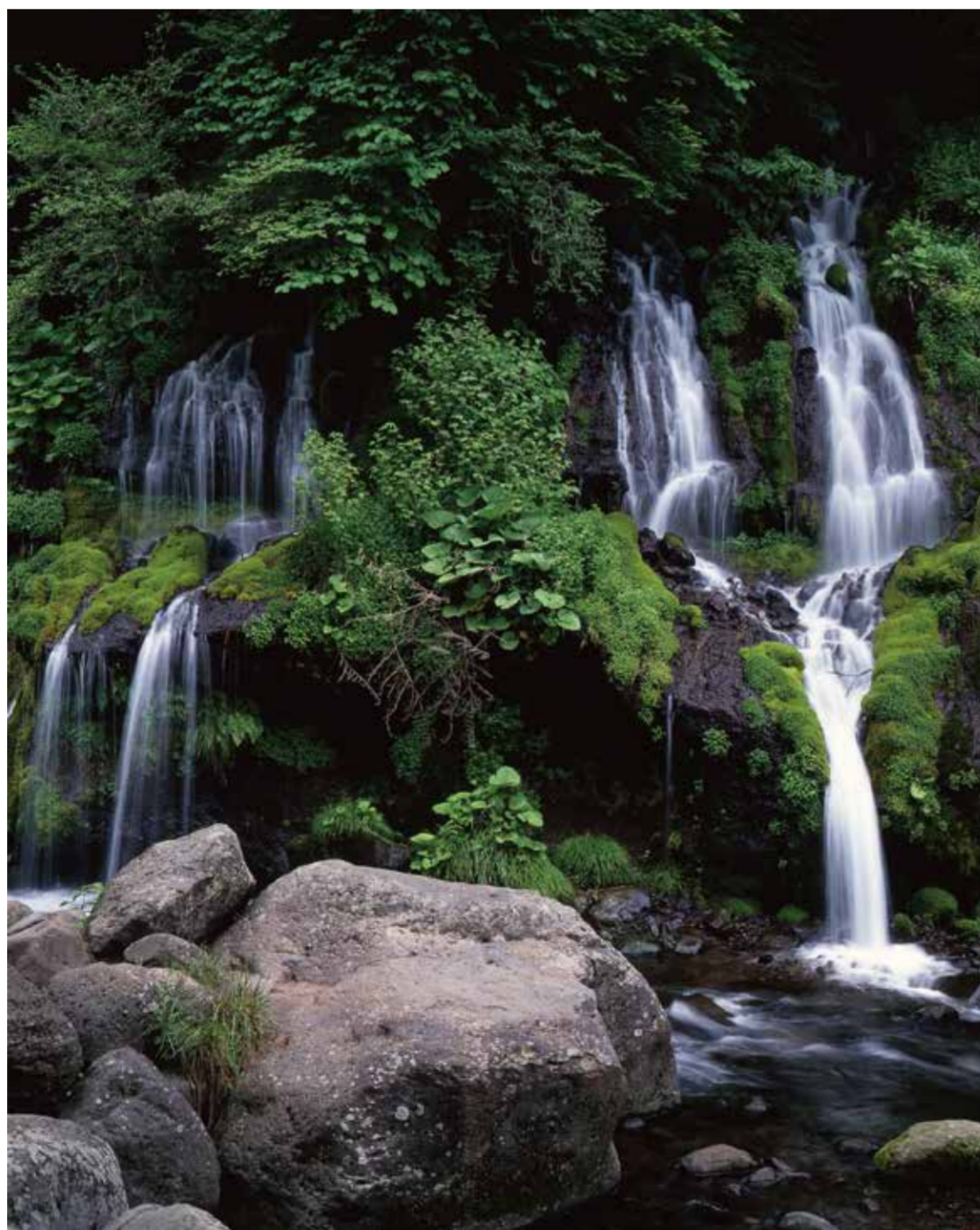
Vol.
21

©photo by Tatsuro Kondo

mcc マミヤカメラクラブ会報誌

コンタツおじさんの 北八ヶ岳とマミヤカメラ講話。

コンタツおじさんの愛称で人気の写真家・近藤辰郎さんがインタビュールームに入って来た瞬間にその場が明るくなります。早速得意のジョークがポンポンポン出たら、もうそこはコンタツワールドと化しています。山を愛するカメラマンなら誰でも知っている近藤辰郎さんは、特に北アルプス全域を取材され多くの作品を発表されていることは有名です。北アルプスがイメージのコンタツさんですが、実は 1993 年に写真集「八ヶ岳連峰」も出版されています。3年間に渡り四季の八ヶ岳に通い撮影した作品は八ヶ岳の美しさ、優しさ、厳しさを余すことなく表現しています。今回の特集では、特に人気の北八ヶ岳とマミヤカメラについてお話をうかがい作品を紹介したいと思います。コンタツワールドを満喫してください。



春の北八ヶ岳・川俣川・東沢・吐竜の滝 シュナイダー・アポジンマー 135/5.6 f22・161/4
〈表紙〉北八ヶ岳・初夏の黒百合平スリバチ池から東天狗岳 (左) 西天狗岳 (右) シュナイダー・スーパーアングュロン 75/5.6 f32 1/8

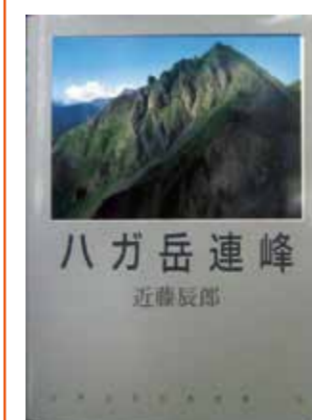


近藤 辰郎 (こんどう たつろう)

1935年9月東京生まれ。
1965年東京総合写真学校を経て写真家・横山宏氏に師事。その後フリーの写真家として独立。
北アルプス全域、中でも後立山連峰と槍・穂高連峰の撮影を続ける。その後3年間をかけ八ヶ岳連峰を撮影。
山岳、アウトドア雑誌、写真集に作品を発表。写真展多数開催、著書・写真集「日本の名峰 19 白馬岳と後立山連峰」「コンタツおじさんの北アルプス案内 (北部編・南部編)」「八ヶ岳連峰」(以上山と溪谷社) など。



初夏の北八ヶ岳・八千穂高原の白樺林
シュナイダー・スーパーアングュロン 75/5.6 f45 32 1/1



山溪山岳写真選集 16「八ヶ岳連峰」著者 近藤辰郎
※1993年出版のため、出版社にも在庫がありませんが、Amazonにて購入は可能です。



原生林と苔床 白駒池
シュナイダー・アポジンマー 135/5.6 f32 1/2



夏の北八ヶ岳・日の出とシルエットの三ヶ岳・北横岳付近から
シュナイダー・アングュロン 90/6.8 f22 1/15



春の北八ヶ岳・ザゼンソウ咲き始める・奥蓼科明治湯付近
シュナイダー・アポジンマー 210/5.6 f64 1/2



初冬の北八ヶ岳・八丁平原
シュナイダー・アングュロン 90/6.8 f22 1/15



初冬の北八ヶ岳・霧氷と岩海・蓼科山頂から
シュナイダー・アポジンマー 150/5.6 f32 1/8

Q. コンタツさんと八ヶ岳の出会いとは？

—— 最初は北アルプス全域を撮影していて「槍ヶ岳讃歌」や「コンタツおじさんの北アルプス案内（北部編・南部編）」等を出版していましたが、1990年頃に山と溪谷社の担当者と「八ヶ岳の写真集を出版しよう」と言う話がまとまり丸3年かけて四季の八ヶ岳に通い詰め段ボール2箱分の写真を撮ったよ。そして1993年に「八ヶ岳連峰」と言う写真集を出版しました。

Q. 八ヶ岳の魅力は何ですか？

—— 森の美しさ、原生林、針葉樹、ダケカンバ、ナナカマド、静かな池、水の流れ等いろいろなイメージが出てくるね。また南は男性的で北は女性的な山容で比較をすると面白いね。夏沢峠で北と南を分けている。東京から近いのも良いね。アシスタントを連れて3年間通った記憶が今でも鮮明だよ。各山小屋に取材協力して頂いたのは今でも感謝しています。人との付き合いは大事で山小屋のマスターの情報で絶景を撮影した事も沢山ありますよ。

Q. 北八ヶ岳の撮影に適した季節は？

—— 北八ヶ岳は春から夏がいいね。残雪と新緑がとてもキレイ。また山の下の方は花が咲くんだよねこれも良いね。夏は南部の稜線の方が花が多いよね。冬はそれなりの装備をして撮影に望まなければいけませんよ。冬は北アルプスより寒いよ。防寒具やアイゼン等荷物が増えるのが大変だけど、雪が降ると景色が一変して別世界だよ。

Q. 北八ヶ岳の撮影ポイントは？

—— 森林は高曇りの時、川は反射を捉え、開けた所は雲の流れを捉え、その場所場所何がポイントかを認識しなければ駄目だね。それには臨機応変の観察眼が大事だね。その観察眼を養うのはいろいろな絵画展や写真展に出掛けていい作品を見る事だね。写真の最大要素と言うのが最後は構図だよ。そこで各人のセンスが出る訳ですね。

Q. 北八ヶ岳での撮影機材は？

—— 北八ヶ岳では4x5インチの大判カメラをメインに、サブ機にマミヤを使っています。大判カメ

ラは三脚にどっしり構えての撮影となりますので移動が多少大変ですが、マミヤ7IIは小回りが効くのでシャッターチャンスを逃したくない被写体撮影に便利です。

Q. マミヤカメラとの出会いは？

—— 山の写真を撮影するのに6x7cmサイズが好きでマミヤプレスを購入したのがマミヤカメラとの出会いです。東京総合写真専門学校で既にプロとして山の写真を発表していた先輩の横山宏さんと出会いました。当時の富士フィルムの部長さんが横山さんの写真を気に入り「羽田空港に飾るGカラーの作品を撮って欲しい」ということで、横山さんのお手伝いとして私もこの仕事をやることになったのです。8x10インチの大判カメラを担いで2年間全国30カ所以上の山岳・風景写真を撮影しました。この撮影の合間に横山さんの許可を得てマミヤプレスとセコール90mm1本で自分なりの山岳写真を沢山撮影しましたね。この中で冬の菅平で撮影したプロスキーヤーによるジャンプの写真がアルパインカレンダーに採用されたのを覚えています。またその後、当時のマミヤの会社が家にも近い茗荷谷に在った事もあり付き合いが続き、NEWマミヤ6やマミヤ7、マミヤ7IIと使っています。

Q. マミヤ7IIの良い所は？

—— 風景写真にピッタリフォーマットの6x7cmが良いですね。そして何よりも軽量・コンパクトで携行性に優れているのが良いよ。またレンズもいろいろ揃っているのも良いね。今は大判カメラの撮影がメインですが大判カメラで撮れない風景写真を撮るのに最適だよ。又、ファインダーの性能もライカに匹敵する素晴らしさでこのマミヤ7IIは設計者と技術者の血と汗の集大成だよ。

Q. デジタルカメラとフィルムカメラについてのご意見は？

—— フィルムカメラで撮った作品は何と言っても奥行感、空気感、立体感が違うよ。デジタルは見た目がぬるっとしてあまり好きでない。今後もフィルムが在る限り頑張って撮影するよ。なお自分の作品はフィルムで撮影していただきたい。作品集や写真展発表を前提としての事ですが。



初夏の北八ヶ岳・東天狗・西天狗岳・中山峠付近から
シュナイダー・アングュロン 90/6.8 f22 1/8

春 秋

北八ヶ岳四季



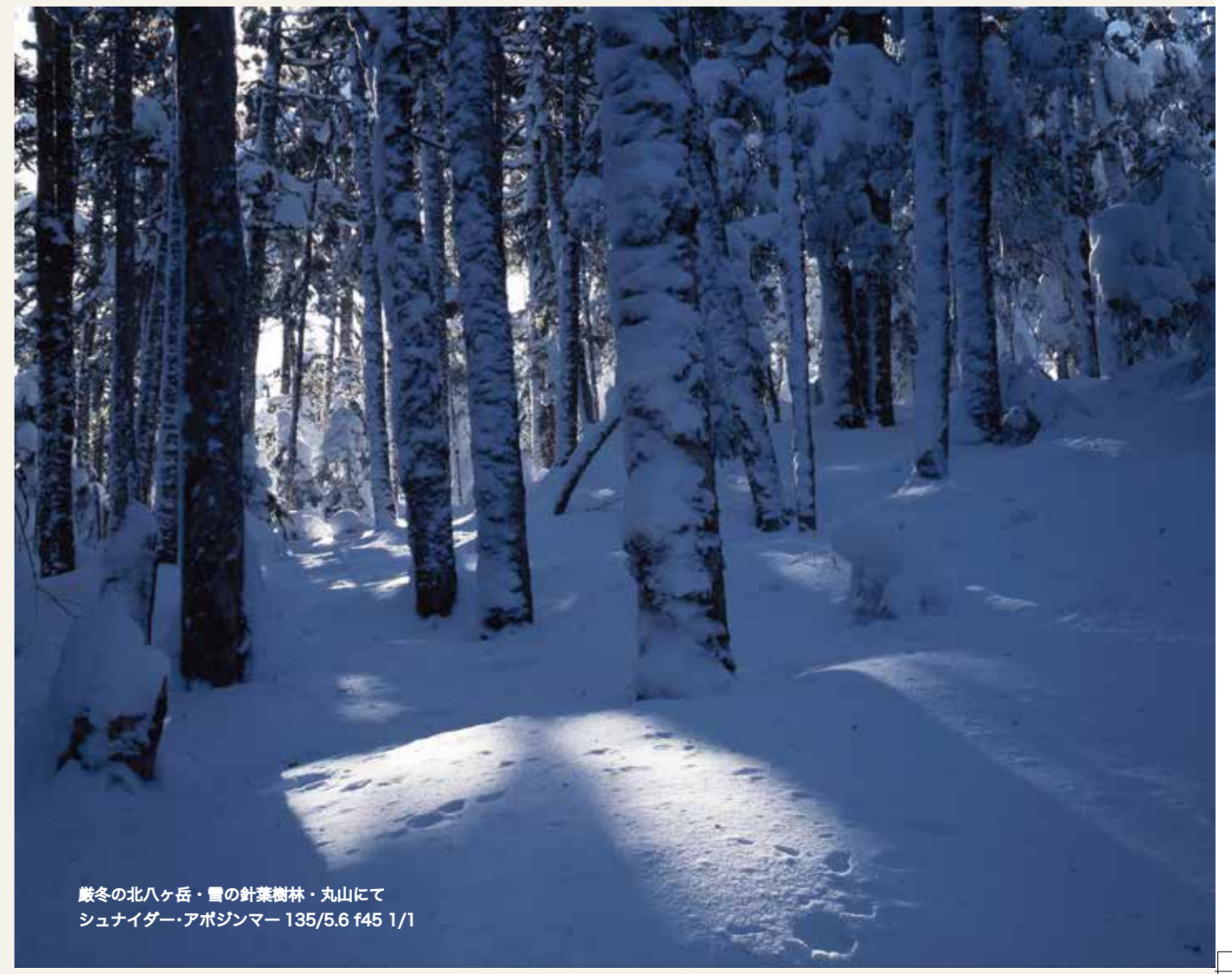
北八ヶ岳・中山の岳樺の紅葉と原生林・高見石から
フジノン C300/8.5 f32 1/4



北八ヶ岳山麓・八千穂高原 白樺林とレンゲツツジ
マミヤ 7II N80/4 f22 1/2

夏 冬

近藤辰郎・撮影



厳冬の北八ヶ岳・雪の針葉樹林・丸山にて
シュナイダー・アボジンマー 135/5.6 f45 1/1

『花との出会いは一期一会。

その瞬間を大切に残したい。』

井川クキ子さん



私は山歩きが好きで山でのスナップ写真を撮っていたが物足りなくなり、花のマクロ撮影を教わった。目の前が開けてだんだんと広い空間のある風景とか花のある景色に魅了され、以来 30 年近くになる。
厳しい冬を越してそっと顔をのぞかせた花、広い大地に根を張って美しく咲いた花、大きな樹の下で楚々と咲いている花。花と向き合っていると心の安らぎがある。
花との出会いは一期一会、次に機会は無いと思い、その瞬間を大切に残したいと何時も願いながらシャッターを切る。



2012.5 山形県飯豊町 マミヤ 7II 150mm f32 1/2 RVP50



1998.7 秋田県にかほ市 マミヤ 7 65mm f22 1/2 コニカ SRA



2005.5 長野県小谷村榑池 マミヤ 7II 65mm f22 1s RVP50



1998.6 岩手県平庭高原 マミヤ 7 65mm f22 1/4 コニカ SRA



2010.5 奈良県吉野郷大台ヶ原 マミヤ 645AFD 55-110mm f16 1/4 RVP50

マミヤカメラユーザーを訪ねて。

「高原麗花」

花と向き合っていると
心の安らぎがある。



井川 クキ子 (いかわ くきこ)
東京都三鷹市在住。ネイチャーフォト「青」の会創立会員、以来 27 年現在も在籍。マミヤカメラクラブ、日本山岳写真協会、ワイズ大判写真の会の会員。中判カメラで風景および山岳写真を撮る。



2002.6 長野県岡谷市 マミヤ 7 43mm f22 1/60 コニカ SRA



2002.7 新潟県田上町 マミヤ 7 65mm f22 1/2 コニカ SRA



2005.5 新潟県糸魚川市 マミヤ 645AFD 105-210mm オート RVP100



俗に言われる「谷・根・千」とは東京の文京区及び台東区に位置し、山の手の一角ながら「東京の下町」の風情を残し、散歩愛好家、カメラマン等に注目されている散策エリアです。谷中の「谷中霊園」には最後の将軍・徳川慶喜や横山大観、長谷川一夫、ニコライなど多くの著名人のお墓があります。また夕焼けだんだんの名称で人気の下町の商店街「谷中銀座」も注目です。根津には日本武尊が創祀したと伝えられるツツジの名所としても有名な国の重要文化財「根津神社」があります。千駄木は夏目漱石、森鷗外、川端康成など多くの文人が暮らした街でその佇まいに歴史を感じる事が出来ます。この様に谷中・根津・千駄木界限は沢山の神社仏閣や旧跡、話題のお店等が点在しています。これらを全て廻ろうとすると丸1週間は掛かってしまうと思います。そこで効率良く沢山の場所を廻ることができる「谷・根・千界限散策推奨コース」をご提案致します。このコースに皆様の行きたい場所をプラスしてカメラ散策をお楽しみください。

《谷中・根津・千駄木界限撮影アドバイス》

「谷中霊園」、「根津神社」ではマミヤRBやRZでも三脚を用いて撮影する事ができますから、じっくりと時間をかけて構図取りが可能です。ただ他のエリアはとても細い路地が交錯していますので、手持ち撮影できるマミヤ7IIやマミヤ645 AFD等のボディに広角レンズ系をセットされる事をお勧め致します。「谷中銀座」でスナップ撮影する場合は撮影されるのを嫌がる方もいますし、撮影禁止の店舗もありますので充分注意して撮影ください。また、街を歩いていると古い教会や戦災を免れた貴重な建物もありますので是非カメラにおさめたいものです。



※谷・根・千界限をマミヤカメラを持って歩く会員募集中です。
メール、FAXにてご登録ください。詳細が決まりましたらご案内致します。



谷中・根津・千駄木の歩き方。

谷中・根津・千駄木地区は決して狭いエリアではありません。「谷中霊園」「根津神社」「夕焼けだんだん」「へび道」「築地塀」等いろいろ訪れたい場所があります。効率良く谷・根・千界隈を回るコースをご紹介します。



まずは JR 日暮里駅で下車し、駅の案内地図で大まかに位置関係を確認ください。



谷中霊園の入口左側にある、谷中七福神のひとつ恵比寿様の青雲寺に立寄りたい。境内には珍しい大仏様が鎮座。



谷中霊園のメインストリート。サクラの季節はとてもキレイです。



放火心中事件で消失してしまった五重塔跡。幸田露伴の小説『五重塔』のモデル。



東京都内では珍しい駐在所。もちろんちゃんと機能しています。



最後の将軍・徳川慶喜のお墓。谷中霊園にはニコライ、長谷川一夫等著名人のお墓が沢山点在します。



銭湯を改装して出来たアートギャラリー SCAI THE BATHHOUSE。煙突は今でも残っています。



江戸時代から谷中6丁目で酒屋を営んでいた「吉田屋」の建物を移築し、台東区が管理する下町風俗資料館。入館は無料です。



谷中のヒマヤヤ杉はここ一帯のランドマークにもなる巨木。同店が戦前から鉢植えで育てたという生育の良い根性杉。



玉林寺路地の古井戸は現在でも使用できる現役井戸。ただし個人所有のため勝手に使わない様にした。



ねんねこ屋はネコ好きにはたまらないお店。店の外観も中もネコ、ネコ、ネコの調度アクセサリ。もちろん本物のネコも沢山います。



「大名時計」は美術工芸品として作られた日本独特の時計。陶芸家の故上口愚朗が生産にわたり収集した江戸時代の貴重な文化遺産を保存しています。



丁字屋は明治 28 年店の前を流れていた愛染川を利用して創業された染物屋さん。「萬染物處」の看板が歴史を物語ります。



住宅地の真ん中にある根津教会。大正 8 年に建てられた教会で建物は文化庁登録有形文化財に指定されています。



根津神社。日本武尊が千駄木の地に創祀と伝えられる古社。五代將軍綱吉は世継が定まった際に根津の地に社殿を奉建御遷座した。ツツジの名所として有名。



世に言う天下普請の、権現造り本殿（写真奥）・幣殿・拝殿・唐門・透塀・楼門の全てが現存。（国の重要文化財）楼門右側の随身は水戸光圀がモデルとの言い伝えです。



文京区と台東区の境目になっている「へび道」は「藍染川」という川でした。このように長く蛇行した道はとても珍しい。



よみせ通りよりちょっと入ったところにある「指人形笑吉」。小さめのショーウィンドウには沢山の指人形があります。



錦絵と團扇制作の間屋「いせ辰」を開店したのが初代辰五郎で、その伝統を受けつぎ江戸千代紙や紙工芸品の店として「いせ辰」ありと名高い店。



「よみせ通り」の中程の地藏菩薩は、長野県南佐久の古刹黄檗宗玉井山法城院からこの地に移して安置お祀りした名高い延命地藏尊菩薩。



谷中ぎんざは、台東区谷中 3 丁目と荒川区西日暮里 3 丁目にまたがる商店街で下町の台所の役目もしています。



夕焼けだんだんは、日暮里駅方面から谷中銀座に下る 4m の坂で段数は 36 段。階段上から谷中銀座を見下ろす風景は夕焼けの絶景スポットになっています。



経王寺は、1868 年の上野戦争で敗れた彰義隊をかくまったために受けた新政府軍の攻撃の鉄砲跡を今でも山門に見つけることができます。



朝倉彫塑館は、彫塑家朝倉文夫が住居兼アトリエとして自ら設計・監督をし 8 回におよぶ増改築の後、昭和 3 年から 7 年の歳月をかけて現在の形となる。



観音寺境内南側路地の沿に建てられた築地塀は谷中の象徴的存在。瓦と土を交互に積み重ねて作った土塀に屋根瓦をふいたものです。



観音寺は赤穂浪士ゆかりの寺。四十七士に名を連ねる近松勘六行重と奥田貞右衛門行高はこの寺で修行していた文良の兄と弟。



養福寺仁王門は木食養高の中興と伝えられ、門の裏側には広目天と多聞天の二天王像が安置されています。



富士見坂はこの場所から実際に富士山が見えるため「関東の富士見百景」に選定されています。



諏訪神社は元久二年の創立。寛永十二年社殿を現在の地に御遷座。日暮里・谷中の総鎮守の神社として名高い。



JR 西日暮里駅で今回の散策は終了です。またの機会に是非再訪してください。

ここはじっくりカメラに収めたい。 日本武尊が創祀した根津神社。

根津神社は昔、日本武尊が千駄木の地に創祀したと伝えられる古社で、文明年間には太田道灌が社殿を奉建しています。江戸時代五代將軍徳川綱吉は世継が定まった際に現在の社殿を奉建、千駄木の旧社地より御遷座しました。明治維新には、明治天皇御東幸にあたり勅使を遣わされ、国家安泰の御祈願を修められる等、古来御神威高い名社です。



国指定の重要文化財の楼門の正面右側の随身は水戸光圈がモデルとされています。奥が本殿で、宝永二年に五代將軍綱吉は兄綱重の子綱豊（六代家宣）を養嗣子に定めると、氏神根津神社にその屋敷地を献納。天下普請と言われる大造営を行ないました。翌年完成した権現造りの本殿・幣殿・拝殿・唐門・透塀・楼門の全てが欠けずに現存し国の重要文化財に指定されています。



文豪憩いの石は森鷗外や夏目漱石らが腰掛けて想を練ったと言われています。



北参道から根津神社に入る人が多いが、表参道は根津神社南側に位置する。



徳川綱重の屋敷庭にツツジを植えていた事が始まりで、4月中旬から下旬頃には約50種3000株のツツジが咲き乱れる。この時期文京つつじまつりが境内で開催され様々な行事により参拝者で賑わいます。



乙女稲荷神社の御祭神は倉稲魂命。社殿両側には奉納された鳥居が立ち並びます。



砲衣塚は六代將軍家宣公の胎盤が納められるとされる。



六代將軍家宣公の産湯井戸（非公開）。境内地となる以前は徳川綱重公の下屋敷跡であった。



陸軍軍医だった森鷗外は日露戦争戦利砲弾を飾るための石の台座を奉納しました。現在は水飲み場として利用されています。



駒込稲荷神社。御祭神は伊弉諾命・伊弉冊命・倉稲魂命・級長津彦命・級長戸辺命。もとは綱重公の邸内社。



江戸時代街道の辻に建てられていた庚申塚が、明治以降の道路拡張により取り除かれ根津神社に奉納されました。



根津神社の挙式は儀式は厳粛そのもの。参拝者全員が玉串を捧げて二人の幸せを祈ります。1日2組限定。



唐門は神社の正門。両妻に唐破風を備える。天井には以前、藤原立信の墨江の龍が画かれていました。



社殿周囲を囲む透塀。名称の由来は格子部より向こう側が見えることによります。総延長200メートル。



稲荷神社の北側の斜面上に水源から流れ落ちた水は細長い池から南へ流れ、境内東南側のより大きな池に通じます。



各種祭りの時に活躍するのがこの能舞台。境内で舞われる能は荘厳です。



根津神社と言えば低木のツツジが有名ですが、歴史ある神社だけにクスノキ、イチョウ等の巨木にも注目したい。

伊豆・天城の森撮影会 《自然林の宝庫・天城を訪ねる》

写真集「天城」「天城山」などを出版され、伊豆・天城を精力的に撮影する写真家・曾我定昭さんの撮影会です。天城山は広葉樹に囲まれており、新緑や紅葉写真の撮影に適している山です。天城を知り尽くしている曾我定昭さんならではの撮影スポットにご期待ください。

- 開催日 2012年11月9日(金)～10日(土)
- 集合 第一集合場所 マミヤカメラクラブ事務局
第二集合場所 東京駅八重洲口 八重洲ブックセンター前
- 指導 曾我 定昭
- 参加費 40000円(税込)
- 予定 ○11月9日(金)
8時30分・マミヤカメラ事務局(第1集合場所)集合・出発～
9時・東京駅八重洲口ブックセンター(第2集合場所)集合・出発
12時頃・伊豆・天城到着 滑沢渓谷周辺撮影。
○11月10日(土)
8時30分・道の駅天城越(定期バス) 天城・八丁池の森撮影。
14時頃・現地出発
- 宿泊先 旅館たつた 静岡県田方郡天城湯ヶ島町湯ヶ島 347
0558-85-0511
- 備考 東京～伊豆はチャーターバス利用(中型)となります。
現地、道の駅天城越～八丁池は定期バス利用(個人負担)。



現地の撮影ポイントを説明する曾我定昭さん。



「晩秋の佇まい」 万三郎岳付近 10月下旬 リンホフ ニッコール W150



「黒光る岩」 滑沢渓谷 10月下旬 マミヤ7 II N50mm f4.5L



「最後の燃焼」 万三郎岳付近 10月下旬 マミヤ7 II N80mm f4L



「水の滑り台」 滑沢渓谷 10月中旬 マミヤ7 II N50mm f4.5L

参加者全員に曾我定昭 2013年カレンダー「天城」をプレゼント!



曾我 定昭(そが さだあき)

1940年生まれ。マミヤ7 II 所有。2004年、2007年マミヤカレンダーを担当。富士スピードウェイのオフィシャルカメラマン等の経歴を経て1997年より天城に入山し本格的な撮影を開始する。その後写真集「天城山」「天城」「幽幻」を発行。「天城」について自身の撮影感を「温暖な気候と恵まれた海の幸や温泉で訪れる人の多い伊豆半島だが、その脊梁をなす天城連山は年間4000ミリ近い雨が降る。多量の雨は美しい渓谷と暖帯から冷温帯までの樹木の混在する豊かな原生林を育てている。ブナや姫沙羅の深い森の風情は伝えられる伝説と歴史により、暗く哀しい情念の世界を連想させます。そんなイメージを写真で表現しています」と語っています。



2013年度版カレンダー。

银杏舞う東大構内撮影会!

東大構内が黄色一色に染まるのは12月上旬です。マミヤカメラクラブではワイズ大中判写真の会と合同で撮影会を企画します。指導講師はいませんがワイズインストラクターが東大構内を案内します。参加費は無料ですので是非ご参加ください。

- 開催日 2012年12月1日(土) 11時～15時
- 集合 11時 マミヤカメラクラブ事務局(ワイズクリエイト)
東京都文京区本郷 3-39-14 TEL: 03-5689-2776
- 撮影地 東京大学構内
- 案内 木戸嘉一(マミヤカメラクラブ事務局・ワイズクリエイト)
- 参加費 無料
- 定員 12名
- 申込 会員番号を確認の上必ず電話、ファックス、メールにてお申し込みください。
- その他 昼食は学生食堂を予定(個人負担)。雨天中止。
ワイズ大中判写真の会との共同開催とさせていただきます。



2012 report

▶▶▶川太泰夫指導「残雪と新緑の月山撮影会」

2012年5月18~20日に指導講師に川太泰夫氏を迎え、新緑が鮮やかになる月山・志津温泉周辺のブナ林を訪れました。月山（がっさん）は、山形県の中央部にあり出羽丘陵の南部に位置する標高1,984mの火山で日本百名山のひとつで、標高1,500mの湯殿山、418mの羽黒山とともに出羽三山のひとつに数えられ修験者の山岳信仰の山として知られています。特にこの時期は残雪の中にたたずむ新緑のブナが魅力的で参加者は思い思いの被写体を見つけ撮影していました。



東京からバスで5時間半で月山に到着。生憎風と雨で撮影カットは伸びません。



川太講師の「月山の四季」を紹介したスライドショー。明日の撮影に役立ちます。



川太講師が撮影・焼き付けした月山モノクロプリントも展示。



朝食前に氾沢で早朝撮影。5月とはいえ雪が残っていて流石に寒さを感じます。



カメラの放列・・・壮观ですね。



撮影会のメインは残雪のブナ林です。撮影場所まではちょっと勾配があります。



周りはブナが一杯です。この日は風もなく絶好の撮影日和。



川太講師が水3Lを持参くださり、残雪の中で暖かいお茶とコーヒーの贅沢です。



お弁当は経木に包まれたおにぎりやゆで卵、唐揚げ等。とても美味しく感じます。



最終日は地蔵沼周辺で撮影。沼とブナと雪をかぶった山々。



雪の間から水が流れる場所には水芭蕉が沢山あります。絶好の被写体です。



3日間があつと言う間に終わってしまいました。

▶▶▶参加者作品発表

総評 残雪期、芽吹きが始まったブナ林は生命力に溢れています。視線を下から上へと動かすだけで、撮影対象はそれこそ無限。それにはブナの事は勿論、ブナ林を構成する樹々や草花の事も知らねばなりません。そうして撮り続けていくと作品に厚みが出てくるでしょう。 川太 泰夫



西原 晴彦 「春の光」 7II 80mm f22 RVP100
残雪の山と芽吹きが始まったブナ林。山にも待ちに待った春の到来です、斜光線で上手く陰影が出て、見飽きない光景です。



小宮 節子 「ブナ林萌える頃」 7II 80mm f16 RVP100
青が高く、日当たりの良いブナは萌葱色。葉が開いてない枝も、春がまだ浅いことを教えてくれます。奥に見えるブナの樹々と手前のブナの影とのバランスも良く、まさに新緑のブナ林です。



井川 クキ子 「早春のブナ林」 645AFD 55-110 f32 1/10 RVP50
新緑、芽鱗、根間き。早春の全てが凝縮されています。上手く斜面を利用して奥行き感も出、ブナ林を流れる沢音が聞こえてくるようです。



飯塚 光男 「彩る早春」 RZ67II 50mm f100-200 f32 4sec RVP50
雪解け後に花を咲かせる水芭蕉。芽鱗に被われた残雪とブナの緑。よく見る光景ですが、各々がバランス良く配置されていて、いいですねー。



古関 良一 「残雪の周海沼」 7II f22 1/10 RVPF
多量の雪で被われていた沼も顔を出し、雪で寝かされていた樹々も起き上がり始めています。ブナは早くも芽吹き、清々しい光景が展開されています。白い雪も効果的です。



松井 謙吾 「月山の春」 645AFD 105-210 f11 1/20 RVP100
写真は光と影と言われます。まさに、これがその典型。朝の光を浴びたブナとまだ光の当たらない山肌とで立体感が出ました。もう一度この場に立ちたい、と思いませんか。

マミヤカメラクラブ web ギャラリーに貴方の作品を掲示しませんか？

マミヤカメラクラブのホームページ (www.mamiya-club.com) の中に会員が作品を発表できる web ギャラリーを開設致しました。クラブ会員ならばだれでも展示可能ですから是非ご利用ください。

《マミヤカメラクラブ web ギャラリー掲載について》

ギャラリーはマミヤカメラクラブ会員ならば誰でも作品展示できる web ギャラリーです。ただし作品はマミヤカメラで撮影されたものに限りです。マミヤカメラクラブの会員ならばどなたでも web ギャラリーに掲載できます。下記項目をお読みいただきお申し込みください。

- (1) ギャラリーには 15 点迄作品をアップできますが追加する場合は最高 30 点迄で 1 点 315 円 (1 年間) の別途費用が掛ります。
- (2) web ギャラリーに申込される場合は画像サイズを長辺 500pixel、解像度 72pixel の JPEG 又は GIF フォーマットで事務局迄お送り下さい。
- (3) 上記作品には名前 (英文字)、番号 (半角) を付けて下さい。(和文不可) 作品展示順はこの番号順となります。(例) kido001.jpg 又は kido001.gif
- (4) ギャラリーにはタイトルを付けて下さい。(例)「尾瀬の四季」「山岳写真あれこれ」
- (5) web ギャラリーで使用する作者の略歴とポートレート写真を同時に用意ください。(ポートレート写真の掲載不要の方は略歴のみ)
- (6) 作品をスキヤニングして JPEG 又は GIF フォーマットにできない場合は、スキヤニング作業を代行致します。この場合は 1 点につき 315 円が掛ります。
- (7) ギャラリーの作品を変更する場合 1 点につき 210 円の費用がかかります。



その他ご不明な事などは遠慮なく事務局にお問い合わせください。

2012 report

▶▶▶近藤辰郎指導「八千穂高原撮影会」

2012年6月15～16日に近藤辰郎氏を指導講師に迎え、北八ヶ岳・八千穂高原の撮影会を開催しました。八千穂高原は日本一と言われる50万本の白樺林が群生している場所として有名です。初日は手始めとばかりに駒出池周辺の景色カメラに収め、次に向かったのが八千穂高原自然園でした。ここは森あり、滝あり、池ありの撮影地で参加者は思い思いの被写体を見つけて積極的に撮影しました。2日目は小雨の中、日本一の白樺林と白駒池を訪ねましたが、丁度霧が出て神秘的な写真撮影に成功です。参加者の皆様大満足のあつという間の2日間でした。



東京駅を9時に出発したバスはお昼には駒出池に到着。お弁当を食べて即撮影開始です。



今回の撮影会の指導講師はコンタツおじさんで有名な近藤辰郎先生。何時も楽しくジョークを飛ばしています。



ひょうきんな近藤辰郎先生ですが、撮影指導になると、まじめな態度に一変します。流石にプロ写真家です。



八千穂高原自然園はとても広い敷地の中に白樺林、滝、溪流など沢山の被写体があります。



八千穂高原自然園に入園し、いざ出発です。早くもお気に入りの被写体を見つけた人もいます。



橋の上から滝と溪流の撮影です。シャッターを切る時は他人は動かないようにと近藤先生からの注意が。



園内には「溶岩とクマ穴」の看板がありました。流石にクマはいませんが自然豊かなんですね。



夕食はホテル前の蕎麦居酒屋の座敷を借り切って楽しい一時です。お酒が回らない内に先生から明日の注意です。



日本一の白樺林は既に撮影者がいましたが、グッドタイミングで発生した霧で人の写り込みは大丈夫でした。



白樺やレンゲツツジは、雨が降りしつとり感が出て被写体として最高に。欲を出して後は霧を待つだけです。



白駒池に向かう登山道ですが、いつの間にか木道部分が多くなったようです。木道は滑るので注意が必要ですね。



雨が降ってきて、休憩所建屋から霧の間に白駒池を撮影です。これならカメラも濡れないで済みますね。

▶▶▶参加者作品発表

総評 北八ヶ岳撮影会に参加の皆様お疲れ様でした。第一日は時折の木漏れ日で駒出池と自然園で森林浴を兼ねての撮影。第二日目は台風と小雨の中で日本一を誇る白樺林とレンゲツツジの花、時折霧が発生して良いムードになり、ラストは白駒池へ移動し原生林と苔床が一番美しい季節に出会い、あの条件の中で多くの傑作が参加者から集まり撮影会を主催したクラブ事務局に感謝します。 近藤 辰郎



松井 謙吾 「霧に咲く」 645AFD 105-210 f16 1/15 RVP100
小雨降る白樺林の中で、幸い霧が出現したのと前、中、後の構図とレンゲツツジを配した安定した作品です。



笛木 祐知 「幽玄」 RZ67PRO II 50mm f22 2sec RDP400X
横構図も良いですが、縦構図にするのも主題が明確になり良いと思います。



井川 キキ子 「深山の沼」 645AFD 105-210 f32 1sec RVP50
池に反射している空の部分がわずらわしいので、白線のようにトリミングすることによって主題も明確になるでしょう。



古関 良一 「クリンソウ咲く自然園」 645AFD f22 1/4 RVPF
画面両端をカットして下方もカットすると良くなること請け合いです。



萩野 信典 「瞬光」 645AFD 55-110 f11 1/20 E100VS
おきまりのカットです。先生も同じようなカットがありますので安心下さい。



若林 美代子 「静かに咲く」 645AFD f22 AE
この構図はただものではないですね。先生の指導よろしく物にしました。



飯塚 光男 「若木育む朽木」 RZ67 II f22 4sec RVP50
青い樹の葉と朽ちた樹が対照的で、良いポイントを見つけたと思います。構図も安定感があり良いと思います。



細谷 一男 「若葉の頃」 645PRO 55-110 f22 1/2 RVP100
あれこれ構図に入れる時、欲張らないことです。右側をカットすることでスッキリします。



谷戸 優 「もののけの森」 645PRO 150 f22 AE RVP50
小雨と風で大変な白駒池周辺でした。左側と下を少しカットするとスッキリした構図になります。



井出 多美夫 「静かなる小枝」 645AFD f22 AE
力強いカットです。右側をトリミングすると主題がはっきりすることでしょう。

大判カメラのすすめ

その1

マミヤカメラの製造・販売をしているマミヤ・デジタル・イメージング社では、ドイツの大判レンズメーカー・シュナイダー社製品の日本輸入代理店も務めています。シュナイダー社製大判レンズは大判カメラユーザーから絶大な信頼と人気を誇るブランドです。そこで今回はシュナイダーレンズに最も関連のある「大判カメラ」にスポットを当て特集を組んでみました。

木戸 嘉一

【大判カメラって何?】

大判カメラとは、4×5インチ（1インチは2.54センチ）以上の5×7、8×10インチ等、1枚ずつのシートフィルムを使用するカメラのことを言います。4×5インチ大判カメラは、35ミリカメラと比較してフィルム面積は約15倍にもなり、ディテールの描写力等が優れているため、全倍などの大伸ばしプリントにも対応します。下の(写真①)は東京大学安田講堂を4×5インチの大判カメラに焦点距離150ミリレンズを装着して撮影した作品です。(写真②)は同じ構図にするため、35ミリ判カメラの焦点距離46ミリレンズ(ズーム)で撮影した作品です。※縦横比は相違するものの大体同じ構図となっています。(写真③)は(写真①)のフィルムから時計部分を拡大してキャビネプリントにしてみました。(写真④)は(写真②)のフィルムからやはり時計部分を拡大してキャビネプリントにしました。結果、大判カメラで撮影した作品は、時計、レング等全てが精密描写されたプリントになっています。一方、35ミリ判で撮影された作品は、時計、レングのエッジがぼやけてクオリティの差が目瞭然となりました。これだけ35ミリ判と大判とでは差があるという実証です。



【大判カメラの種類は?】

大判カメラは大分類で、ビューカメラタイプとテクニカルカメラタイプの2種類に分かれます。ビューカメラは主にスタジオで使用され、1本のモノレール上にレンズ部とフィルム部を蛇腹で繋いでいます。大変重く携行性も悪いのですが、セット後の操作性はとても良いとされます。テクニカルカメラは別名フィールドカメラとも言われ、重量も軽いため風景写真等に最適とされます。テクニカルカメラの場合金属製がメインとされているようですが、更に軽量化を計った木製や樹脂製のものもあります。各々性能等に一長一短があります。

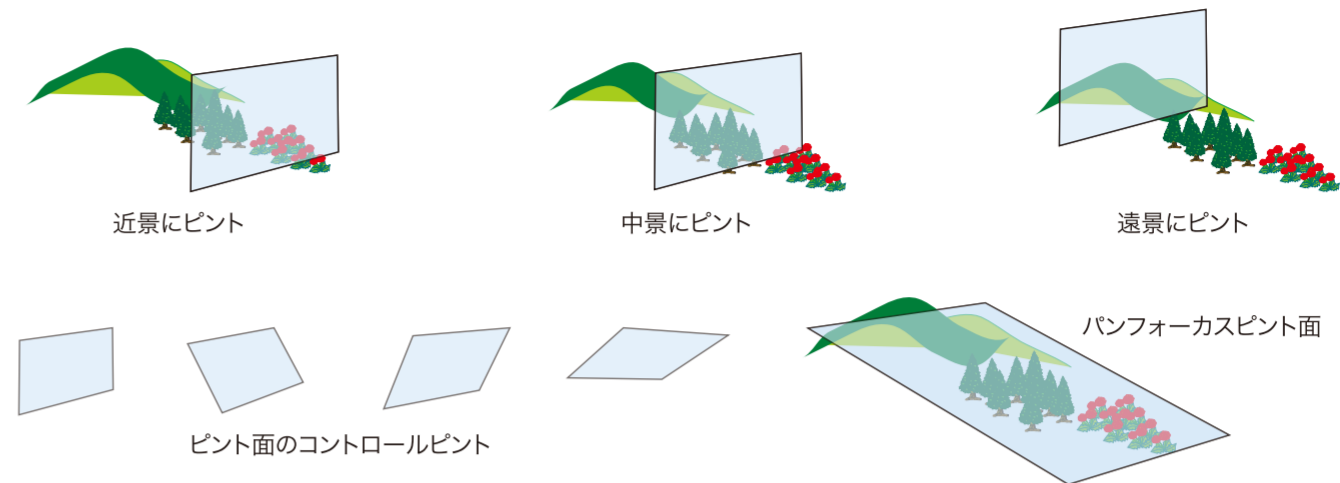


【大判カメラのアオリって?】

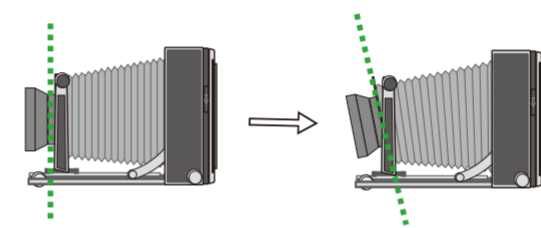
大判カメラの特長はまず大画面があげられますが、今一番注目されているのがアオリ(アオリ撮影)です。アオリの特性はレンズ部とフィルム部を、蛇腹で繋いだ大判カメラの構造上の特徴を活かし、各々を自在に動かして被写体の①ピント面の調整と②形の修正を可能にするこの二つに代表されます。

【大判カメラって何?】

レンズ面を操作するフロントアオリはピント面を自由にコントロールできますので風景写真では絶大な効果を発揮します。ピントを理解するために「ピントは面」と言うことを認識ください。私たちが通常のカメラでヘリコイドを回転させてピント合わせを行うのは、このピント面を前にしたり後ろにしたりして調整をしているだけです。イラストを参照ください。左から近景、中景、遠景にピントを合わせた時のピント面を表しています。通常このピント面は絞りにより面が前後に広がり被写界深度を深くします。ただ絞りが足りなかったりピント面が近景や遠景過ぎたりすると花、森、山全てにピントが合ったパンフォーカス写真は完成しません。大判カメラではこのピント面をピント面コントロールイラストのように自由にコントロールできてしまいます。このコントロール方法を使えば先ほどの花、森、山に対してパンフォーカスピント面のイラストの横ピント面を造り上げることが出来ます。



それでは実際のカメラのレンズ面の動きで説明するとパンフォーカスイラストのようにピント面を手前から奥まで全てにするにはカメライラストのようにレンズ面を前にお辞儀させてやるだけなのです。リソフやホースマンカメラでは、先ず大まかなピント合わせと構図を決め、正確なピントを一番手前の花に合わせ、その後チルトアオリでレンズ面を少しずつお辞儀をさせていけば不思議なことに花、森、山全ての被写体にピントが合ってきます。ある程度ピントがあったら絞りこんでやればパンフォーカス写真が完成致します。



今回は山や木々、ビルを真っ直ぐに撮影する形のコントロールアオリを説明致します。ご期待ください。

大判カメラ基礎勉強会のお誘い

大判カメラって何?一度体験してみたいという人から、大判カメラを持っているけど撮影するのは初めてという人、もっとアオリを勉強したいという人まで、日本リソフクラブ会員がインストラクターとなり開催する基礎勉強会です。大判カメラを持ってなくても大丈夫!是非大判カメラの世界をご覧ください。



- 開催日: 11月17日(土)、2013年2月16日(土) ■時間: 10:00~13:00
- 集合: 新宿御苑 大木戸門売店横休憩所 ■参加費: 無料 ※雨天中止
- 主催: 日本リソフクラブ ■お申込: 日本リソフクラブ事務局 TEL: 03-5689-2776

「大判カメラマニュアル」10冊プレゼント!

「大判カメラのすすめ」は如何でしたか?大判カメラでの撮影は、カメラの基本を学ぶ上でとても参考になると思います。今回は大判カメラの参考書「大判カメラマニュアル」をマミヤカメラクラブの会員限定で10名の皆様にプレゼントいたします。ご希望の方はEメール、ファックスにて、10月10日までに事務局までお申込みください。応募者多数の場合は厳正なる抽選の上発送致します。(著者はクラブ事務局の木戸嘉一)



『大判カメラマニュアル』は従来無かった大判カメラの参考書としての位置づけで、大判カメラの基本から、撮影の実際までを作例写真とイラストをふんだんに使用したカラー164ページにも及ぶ教習本(参考書)です。特に今注目されているアオリ撮影に付きましては、シチュエーション毎にアオリ使用の前後の写真、イラストを比較解説をするなど読者の身になった親切編集となっております。

- 媒体名: 大判カメラマニュアル ■体裁: A4判 全ページカラー印刷
- ページ: 164ページ ■価格: 3,000円(税込)
- 著者: 木戸嘉一(株式会社ワイズクリエイト) ■発行元: 株式会社ワイズクリエイト

編集後記

マミヤカメラクラブ事務局がワイズクリエイトに移管されて2回目の会報発行になります。今回の会報の中に初めて「大判カメラ」のページを割ってみました。「大判カメラ」はワイズクリエイトが最も得意とするカテゴリです。大判カメラマニュアルプレゼントもありますので、ご興味のある方は是非ご応募ください。また、撮影会では多くの撮影指導写真家のご協力を頂き、真鶴、八千穂高原、月山、本郷界限、谷根千界限など7回も開催致しました。その都度、多くのマミヤカメラクラブ会員の皆様とお会いし、お話しする機会も増え、少しずつ皆様の事務局に対するご要望も分かってきたような気がします。会員皆様と身近な事務局運営を目指していますのでこれからも宜しくお願い致します。 マミヤカメラクラブ事務局 木戸 嘉一

Mamiya Gallery21号
2012年9月20日発行
発行: マミヤカメラクラブ事務局
制作: ワイズクリエイト
編集: 木戸嘉一 鈴木麻子
※掲載の写真・記事等を許可無く復写・転載することを禁じます。